

これが令和の  
**ヒットパーツ!!**



細部チェック!!

# ハイパフォーマンスアジアンタイヤ

注目キーワード #3

## VALINO VR08GP

● ヴァリノタイヤ ● 050-5213-5441  
https://valino.jp



**急激に進化する新興勢力!!**  
それなりだけでなくで安かろうじつから  
納得の性能を持つ**機能パーツ**へと転身

- ヒットの理由**
- 海外生産品ならではのコスバの良さ!
  - 関係者も驚いた走行テスト好結果

トレッド面は外側、半分以上は溝がほとんどなくスリッパ的な使い方を狙って設計。接地面は10種類以上のコンパウンドから最適なセレクトを目標した。ショルダー部分は角がなく丸い形状を採用しているのは、マイルドな正確を狙った設計と思われる。他のメーカーと比較すると設定サイズに対してタイヤ幅は狭い部類で設置面積は他社の同じサイズより若干狭くなっているとはヴァリノの担当者の清水さん。表示より幅広のタイヤも多い中、実測284mm程度の幅になっているそうだ。

ドリフト層から始まったチューニングカーへのアジアンタイヤの導入。消耗品として割り切って使っていた時代から、競技で使えるものへと高性能化され、ついにはタイムアタックでも結果が出る時代にまでなってきたのだ!!

10年ほど前から出ては消え、そして新たなブランドが展開され、そんなムードで広がっていった、いわゆるアジアンタイヤ。性能は二の次とした低価格の実用品として急激にマーケットを拡大したが、それだけに当初は価格競争に終始販売力のあるブランドがマーケットリーダーとして君臨した。

初期はサイドウォールの剛性不足やトレッドの剥がれなど、性能面での不安も露呈したが、それでもタイヤを消耗品と割りきるドリフターたちには喜んで使われた。なにせ安かったからだ。

その後は徐々に性能を追求する機運も高まっていき、価格を抑えつつ機能性を高めるタイヤの開発を進めるブランドも現れた。そして、D1などコンペティション系ドリフトで技術を吸収し開発を進め、評判を高めていった。この流れの中でグリップがいい、トラクションがかかる、という性能面で評判の高さ。ハイパフォーマンスアジアンタイヤ、というべきブランド・銘柄が育ってきたのだ。

ヴァリノタイヤもそんなハイパフォーマンスアジアンタイヤのひとつ。ここ数年、細かいサイクルで

969という驚愕のタイムを刻んだのだ。ちなみに265でこのタイム、国産スポーツラジアルでも簡単には出せないものだ。

しかも、アタックを担当した青木さんによると、タックも減り、多少なくライフもバッチリ。タイヤはそのまま、空気圧や乗り方など変えて、2度目・3度目のアタックでタイヤの特性を見ながらアタックを重ねてこのタイムに到達したのだ。もし、新品でウォーマーで暖め、ピシッと一発を狙えばさらにこの上もあるだろうとのこと。

実は、近年のアジアンブランド

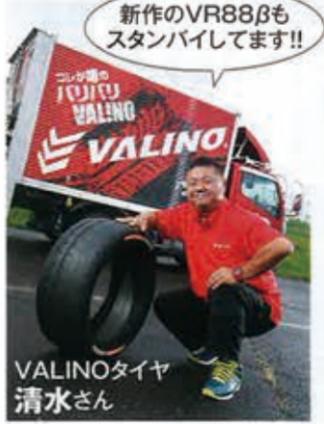
タイヤは技術的にも習熟しつつあり、開発のスピードも早く、メーカーがオーダーすれば生産ロットごとに性能が上がっていくほどのイメージ。

というわけで、ヴァリノタイヤもVR08GPの性能に満足することなく、さらにワンランク上のモデル「VR88β」がこの秋の発売に向けてスタンバイしているとのこと。

最適価格でホットな性能、ハイパフォーマンスアジアンタイヤがチューニングカーの全性能を引き出す時代が確実に近づいてきているのだ!!



アタックしてくれたのは、筑波ラジアル最速の称号を持つRGN(レディ・ゴー・ネクスト)の青木さん。コースからピットに戻ると、熱の入り方・減り方など随時チェック、タイヤのセッティングを出し、使い方、走り方を定めていく。



新作のVR88βもスタンバイしてます!!

VALINOタイヤ 清水さん

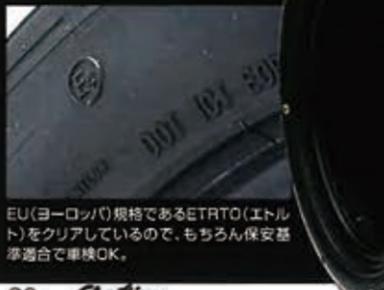
想像のはるか上を行く驚きのタイムが出ましたわ!!

「タイヤの性能の高さ(出せたタイム)には正直驚いた。しかも安定しているね。性格的には絶対的なグリップよりも、バランスよく、裏切らずトラクションがかかるのがこのタイヤ。ゴジったり、無理にしても急激にグリップを失うわけじゃなく、少しだけためてやれば(待ってれば)食ってくれる感覚が戻るので不安なく攻められるね。プレーキング時のグリップ感もあるので、無理に切り込むより最大グリップの付近を維持して大きく周回するのがこのタイヤにあった走り方のようなね。他のタイヤに比べて遠回りになるけど、どのコーナーでも大きく回って抜けてくるラインで攻める必要があるよ」

RGN 青木さん



ユーザーに特化販売し、声を聞きながら製品にフィードバック。もちろん、自社ドライバーなどの走行でチェックをとりリニューアルを繰り返している。頻繁にバージョンアップを行いながら性能、品質を高める開発方針だ。



EU(ヨーロッパ)規格であるETRTO(エルト)をクリアしている。もちろん保安基準適合で車検OK。

JAPAN CONCEPT  
驚異のラインアップを一気投入した新鋭ブランド

**SHIBATAIYA** シバタイヤ

● シバタイヤR31ハウス ● 0574-28-0899 ● https://www.r31house.co.jp

旧車もコンパクトも嬉しい13~18インチまで71のサイズと多数のトレッドウエア設定!!

D1GPやフォーミュラDにフル参戦する中で、タイヤの重要性と必要な数の多さに驚いたというシバタイヤR31ハウス。そして、自分たちの欲しい性能とサイズとを考えた。そのうちに、アジアの巨大なOEMメーカーにタイヤメーカー並のラインアップをオーダーしちゃったという顛末には、聞いているコチラが驚かされた。

そんなわけで、生産国というところから、コンセプトはこちら側でしっかりと定めたいという考えで作っているというスタンスは進国産メーカーと変わらない。シバタイヤだ。

ちなみに、タイヤはサイズ設定だけでなく、各サイズコンパウンドも選べ、街乗り中心だから減らないヤツ、サーキット用だからグリップのいいヤツ、悩ましいからその中間みたいな選び方も可能だ。

また、スポーツ性能という面では「今は、並ただけ、ロットごとに要望がフィードバックされるようになってきているので、わりと速く、上になれたい」というのは仕掛け人の柴田さんのコメント。

販売に関しては、低価格を維持するためにスマホのアプリ、LINEからのオーダーのみ(ラインID @shibataya31)。また、SNSなどで告知してくれる人にはサポート特価を用意している仕掛けなども、なんと現代版だ。

開発を進めながらD1GPなどに展開。勝てるタイヤ、という実績を作り上げた。そして、タイヤユーザー(チーム)からは「このタイヤならタイムアタックもいけるんじゃないの?」といわれるほど高いスポーツ性能を持つに至った。

しかし、ドリフト競技で勝てるタイムアタックで注目を浴びるといっわけではないのはヴァリノタイヤがいちばんよく理解していた。そのため、秘密裏に、タイムアタックで成果を出せるタイヤの開発を進め、世に放たれたのがこのVR08GPというわけだ。

完成したタイヤはいくつかのモニタードライバーに供給されテストを行なったが、当初は評価はいいが世にアピールするほどの結果はなかった。ある意味「これまで多数あ

**VALINO VR08GP**

| サイズ       | 外径  | 幅   | 価格      |
|-----------|-----|-----|---------|
| 225/45R17 | 634 | 225 | 1万4800円 |
| 245/40R17 | 628 | 248 | 1万6300円 |
| 255/40R17 | 636 | 260 | 1万7600円 |
| 235/40R18 | 645 | 241 | 1万8600円 |
| 245/40R18 | 653 | 248 | 1万9800円 |
| 265/35R18 | 643 | 271 | 2万800円  |
| 295/30R18 | 635 | 301 | 2万6800円 |
| 315/30R18 | 647 | 320 | 3万円     |

※販売キャンペーン実施中。詳しくはWEBサイトで!

ったアジアンタイヤのひとつ」と冷ややかに受け止められた感じだ。

そんな状況を「変えたのが今年春にOPTで行なったテスト。VR08GP(265/35R18サイズ)を履かせたテスト車両(RGN・RX-1)が筑波TC2000で56秒

RGN・SUNOCO・DG5・CTA・RX-7



筑波サーキット(TC2000)  
**56"969!!**

sec.1 23.675sec  
sec.2 23.256sec  
sec.3 10.038sec

計測ポイント 199.042km/h  
(記録日: 2021-4-1)

装着サイズ 265/35R18